



別記様式第5号別添

食品等物流改革高度化事業のうち青果物安定流通体制確立事業に関する事業評価シート

事業名	青果物安定流通体制確立事業
事業実施主体名	国産野菜貯蔵性向上協議会
事業の実施期間	平成30年 7月 31日 ~ 平成31年 3月 29日

1 事業の効果

(1) 具体的な取組内容

	キャベツ・ハクサイの貯蔵期間増加のために、栽培試験・貯蔵試験を行った。栽培試験では土壌硬度が貯蔵性に影響があることがわかり、貯蔵試験では高性能な冷蔵技術が通常冷蔵技術よりも貯蔵期間を増加させることがわかった。本事業により、原材料の栽培から長期貯蔵（高性能な冷蔵技術）までの一貫体系モデルを確立する事が出来た。
--	--

(2) 成果目標の達成状況

成果目標の具体的な内容	キャベツ・ハクサイの貯蔵期間の増加。 現状7日の貯蔵期間を12日（増加率71%）貯蔵できるようにする。	
成果目標の達成状況	指標	達成度合
目標値	12日	
基準年（平成27～29年）	7日	
目標年（平成30年）	14日（増加率100%）	140%
改善計画実施結果		
（平成 年）		
事業の実施による効果	実証の結果、ハクサイで貯蔵期間が7日→14日（増加率100%）、キャベツで貯蔵期間が7日→28日（増加率300%）となり、適切な土壌硬度と高性能な冷蔵技術を組み合わせる事で、大幅に貯蔵期間を増加させることができた。実証結果をまとめた報告書を生産者や食品加工会社等に配布し、技術の普及に努めた。	
事業計画の妥当性	1（理由）	天候の関係で栽培予定が変更になる事もあったが、目標値を上回る結果を達成し、事業計画が妥当である事が証明できた。
適正な事業の執行	1（理由）	概算払いの金額から減額があったが、滞りなく事業の執行をすることができた。

(注)

- 「成果目標の具体的な内容」の欄については、事業実施計画書に記載した内容を転記すること。
- 「成果目標の達成状況」については、算出の根拠となる資料を添付すること。
- 「事業の実施による効果」については、取組の総評を記入し、整備事業を実施した場合は施設の活用状況についても記入すること。
- 「事業の妥当性」及び「適正な事業の執行」の欄については、事業が適切に実行された場合には1を、それ以外の場合には0を記入すること。また、その理由について記入すること。

2 事業の成果品等

(注) 事業実施の成果品（報告書等）又は、事業の効果が確認できる資料等を添付すること。